

はじめに

鹿屋市は、鹿児島県の大隅半島中央部に位置し、北部に日本の自然百選にも選ばれた照葉樹林を含む壮大な高隈山系、南部には神代三山陵の一つ吾平山上陵を有する山林地帯が連なり、中央部に笠野原台地などの広大な台地や肝属川兩岸の肝属平野が広がり、西部は波静かな鹿児島湾に面するなど、南北41km、東西20kmにおよび多種多様で豊かな自然環境に恵まれています。



本市においては、温暖な気候と自然環境を利用し、農業・畜産業・水産業において高い産出額を誇る我が国の食料供給基地を形成しております。一方で、地域における社会活動の発展により、人が自然環境に及ぼす環境負荷の影響を心配する声も聞かれるようになり、また、地球温暖化に起因する、私たちが経験したことの無い災害等も発生しており、私たちは、身の回りの豊かな自然環境を次代の子どもたちに引き継ぐために、今後も環境に配慮した様々な取り組みを実施していかなければならないと考えております。

こうした状況を踏まえ、本市では、令和2（2020）年3月に「第2次鹿屋市環境基本計画」を策定し、「未来につなごう ひとと自然環境にやさしいまち かのや」を目指すべき環境像として掲げ、その実現に向けて各施策に取り組んでまいりました。

本計画策定から5年が経過し、その間、地球温暖化による気候変動への関心の高まりや地球温暖化対策そのものにとどまらず、廃プラスチックによる海洋汚染等が新たな課題として認識されるなど、環境問題を取り巻く社会経済情勢も変化いたしました。

地球温暖化への危機感が高まる中、わが国では、令和32（2050）年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標「2050年カーボンニュートラル」を宣言して、脱炭素化の取組を推進しており、本市でも、この危機的状況を回避するため、令和4（2022）年2月に2050年までに市域の二酸化炭素排出量を実質ゼロにし、温暖な気候や豊かな自然環境を未来の子供たちに引き継ぐために、地域全体で脱炭素社会の実現を目指す「ゼロカーボンシティかのや」を宣言しました。

この度は、これらの新たな環境に関する課題、社会経済情勢の変化に対応することができるよう、環境基本計画の中間見直しを行ったところですが、望ましい環境像を実現していくためには、市民、事業者、行政それぞれの行動が重要であるとともに、地域一丸となって取り組んでいくことが大切であると考えておりますので、より一層、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

最後に、本計画の中間見直しを行うに当たり、熱心に御審議いただきました鹿屋市環境審議会の委員の皆様、そして、アンケートなどを通じて貴重なご意見をいただきました多くの市民・事業者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和7年3月

鹿屋市長 中西 茂